

第3章

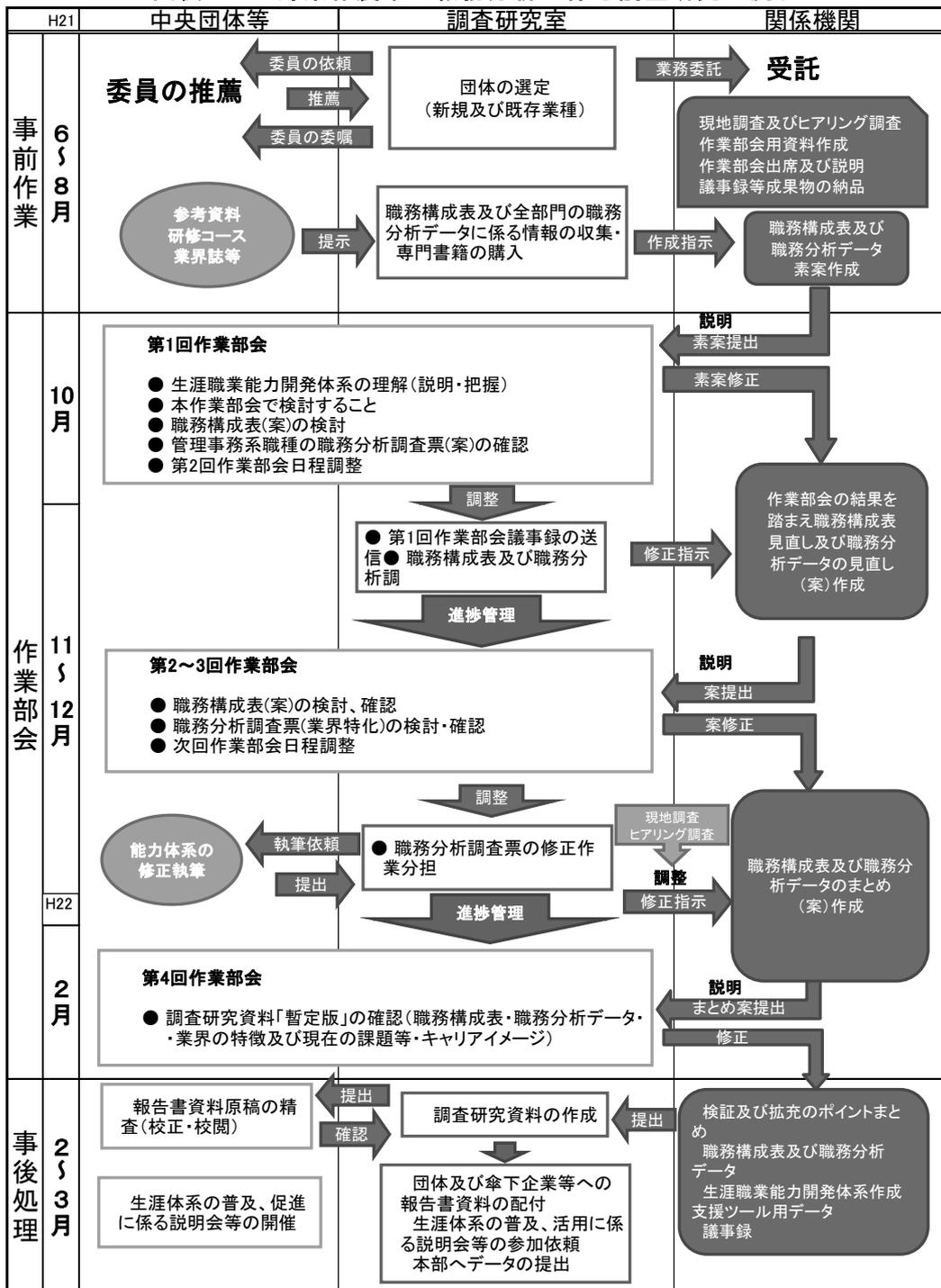
農業(野菜作農業(露地野菜))の職務分析の流れ

3-1 農業（野菜作農業（露地野菜））の職務分析に係る調査研究の流れ

職務分析を進めるにあたっては、全国農業会議所・（社）日本農業法人協会の下、専門委員（技術や技能に加え、企業内全体を管理もしくは統括している人材）による作業部会を設置し、職務の構成を検討・整理するとともに、職務毎の詳細な職務分析データ（仕事や作業の構成と内容）について検討を重ねた。

作業部会は4回開催し、職務分析で不明な点や再確認を必要とする箇所等については現地調査を実施し確認作業を行った。（図表 3-1 参照）

図表 3-1 野菜作農業の職務分析に係る調査研究の流れ



3-2 農業（野菜作農業（露地野菜））の職務分析の流れ

職業能力体系（モデルデータ）を整備するにあたって、まず企業規模やそれに応じた農業（野菜作農業（露地野菜））の標準的な作業を確認することとした。

対象とする事業規模について、作業部会においては委員の方から現状についてご意見を頂き、10～20名程度の従業員数の事業所を想定した。（第2章 図表8参照）

詳細な職務分析を進めるにあたっては、まず標準的な農作業工程を確認し、共通認識を持って進める必要がある。この作業工程を基本に各段階でどのような組織体制で業務を進めているかを「部門」→「職務」・「仕事」・「作業」→「作業をおこなうのに必要とされる知識、技能・技術」と細分化することで職業能力体系（モデルデータ）の整備を行った。「部門」→「職務」・「仕事」・「作業」→「作業をおこなうのに必要とされる知識、技能・技術」等生涯職業能力開発体系で扱われる用語の意味等については、第4章「生涯職業能力開発体系について」及び第5章「職業能力体系（モデルデータ）について」で詳細に扱うこととする。

3-3 農業（野菜作農業（露地野菜））職務分析データ構築に係る部門・職務等の概要と整理のポイント

今回作成した農業（野菜作農業（露地野菜））に係る職業能力体系（モデルデータ）は、従業員規模が10～20名程度の法人とし、現場の標準的な作業工程から職務を洗い出し、名称や表現についても一般的で汎用性のある表現、もしくは、農業界標準となっているような商標・機器・固有名を用いて表現することによって、多くの事業所で活用できるよう考慮した。

しかし、専用設備や機械による仕事、勘や経験測からなる熟練技術を要する作業等については標準化できないため、各企業独自に加筆・修正を加え活用していただくことを想定している。

本調査研究の作業部会における各委員からの意見をまとめ整理した職務構成表は図表3-6のとおりであり、整理にあたってのポイントを以下に示す。

①全般

- ・日本標準産業分類の野菜作農業（きのこ類の栽培を含む）で職務構成を考えると、職務構成表が膨大になるので、露地栽培の野菜作農業として、野菜作農業（露地栽培）の職務構成表とした。
- ・法人規模は、10～20名程度を対象として想定した方がよい。
- ・野菜作農業で職務分析を進めるが、生産部門の職務については、果菜類栽培、

葉茎菜類栽培、根菜類栽培の3つに分類する。

②管理事務系

- ・部門1として「品質管理」と、「営業」を追加する。物流、販売、営業の関連職務を「営業」に入れ、営業管理の職務を追加する。仕事としては、関連法規管理、品質管理、営業マーケティング戦略、営業管理を追加する。
- ・職務に「出荷調製加工」を追加し、規格選別、洗浄、パッケージングの仕事を入れる。出荷の職務の最後に納品の仕事を入れる。なお、流通は営業の部分に統合する。
- ・農薬取締法、肥料取締法は環境配慮関連法令ではなく農産物生産関連法令にもっていくべきである。
- ・有機農業の推進に関する法律が必要。環境配慮関連法令については、環境六法に準じてまとめた方がいい。
- ・労働基準法、労働安全衛生関係法令、道路交通法は法務に持っていきたい。
- ・リース・レンタル物件管理は契約管理とした方がいい。
- ・商品回収の仕事が必要である。残留農薬で引っかかれば回収する。行政にも報告が必要となる。
- ・クレーム対応、対策の立案、商品回収、行政報告といった流れでとらえたい。
- ・大きく「市場内流通」、「市場外流通」で分ける。
- ・市場外流通の中で大口（B to B）、契約（B to B）、直販（B to C）という流れで整理する。
- ・農協を通した流通に関連した知識・技能を追加する。
- ・農薬の学校周知は周辺への配慮で含まれている。補植は定植のひとつの作業である。管理・事務系で緊急時の処置施設の把握が必要である。緊急蘇生法も知っているべきである。

③生産現場系

- ・栽培管理の部門の構成は、栽培管理、安全衛生管理、環境配慮の3つとする。また、栽培管理の仕事に防除、施肥、土壌分析の内容を加える。
- ・環境保全と土壌管理となっているが、環境と土壌は分けたほうがいい。
- ・露地野菜での気象対策は作付け計画と圃場管理に入る。
- ・気象対策としては、植える前には作付けの対策があるし、植えた後は別の対策がある。
- ・現場に出荷物の衛生管理が必要であるし、農薬を散布した後の管理も必要である。

- ・現場で怪我、病気の対応がない。労働環境管理というようなものが必要である。
- ・葉茎菜類でも場合によっては育苗管理が必要である。根菜についても、ほぼ直播だが、育苗管理が必要なものもある。
- ・育苗管理、定植、土寄せは3類とも入れる。畦づくり、支柱立て、トンネル、灌水を追加する。
- ・耕耘も機械によって、サブソイラー、プラソイラー、プラウ、トレンチャー、ロータリーというように5種類ある。ただ耕耘とだけ書くとロータリーと誤解されやすい。
- ・耕耘の中で、トラクターの運転のほかに、状態を判断できるというのが入る。
- ・サブソイラーもあるが、ロータリーの角度の判断もある。たとえば、ロータリーの刃を深く入れることを意図的にやることがある。表現としては、アタッチメントの調節ができるということか。レベルの高い耕耘実務を追加する。
- ・作業に灌水を追加する。水撒きは非常に重要視されている作業である。
- ・灌水量の判断は、果菜類ではレベルが高く、葉茎菜類とかでは、大体でいい。根菜類では、水が中途半端だと芽が出ない。
- ・灌水は、灌水、気象判断、土壌判断、温度判断、機械操作という内容。灌水の判断のレベルは果菜で高い。
- ・出荷調整に調整作業と鮮度保持を追加する。
- ・パッケージングの中に表示が必要である。栽培にも栽培履歴の記録が欲しい。
- ・出荷の最後にも出荷記録が必要である。
- ・栽培の各職務に「畦づくり」、「支柱立て」、「トンネル」、「灌水」、「作業記録」を追加する。
- ・出荷部門に調整作業、出荷衛生管理、鮮度保持を追加する。
- ・農薬使用状況の把握と同様に肥料の使用状況の把握も必要である。
- ・果菜類については手作業で定植するので、野菜用移植機については果菜類からははずし、葉茎菜類・根菜類では残す。
- ・生育診断は幼苗の形を知っていると、葉数は、幼葉異常の判断ができるという整理の仕方がいい。
- ・生育診断で幼苗の形を知っているのは幼苗の生育診断ができるに修正する。捕植の作業は定植に移動し、葉数についての項目は幼葉異常の判断ができるに修正する。
- ・整枝・誘引は、判断と作業に分ける。ウィルス病の株のことは防除に移動する。
- ・除草で収穫前日数というような知識が必要である。

図表 3-2 農業（野菜作農業（露地野菜））職務構成表

■ 職務構成表（野菜作農業（露地野菜））

団体または企業名	部門		職務名
野菜作農業（露地野菜）	経営企画		経営企画
	管理	総務	総務 人事・労務管理 施設・農機具等管理
		経理	財務・予算管理 原価管理 購買
	品質管理		品質管理
	営業・販売		営業・販売
	栽培	栽培管理	栽培管理 安全・衛生管理 環境配慮 農機具等保守点検 段取り
		栽培（露地栽培）	果菜類栽培 葉茎菜類栽培 根菜類栽培
		出荷	出荷調整加工 出荷

